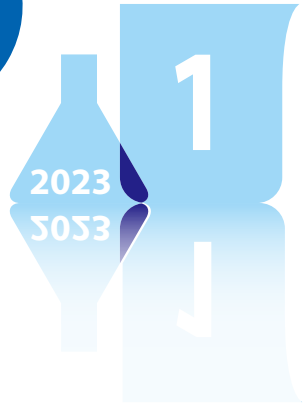
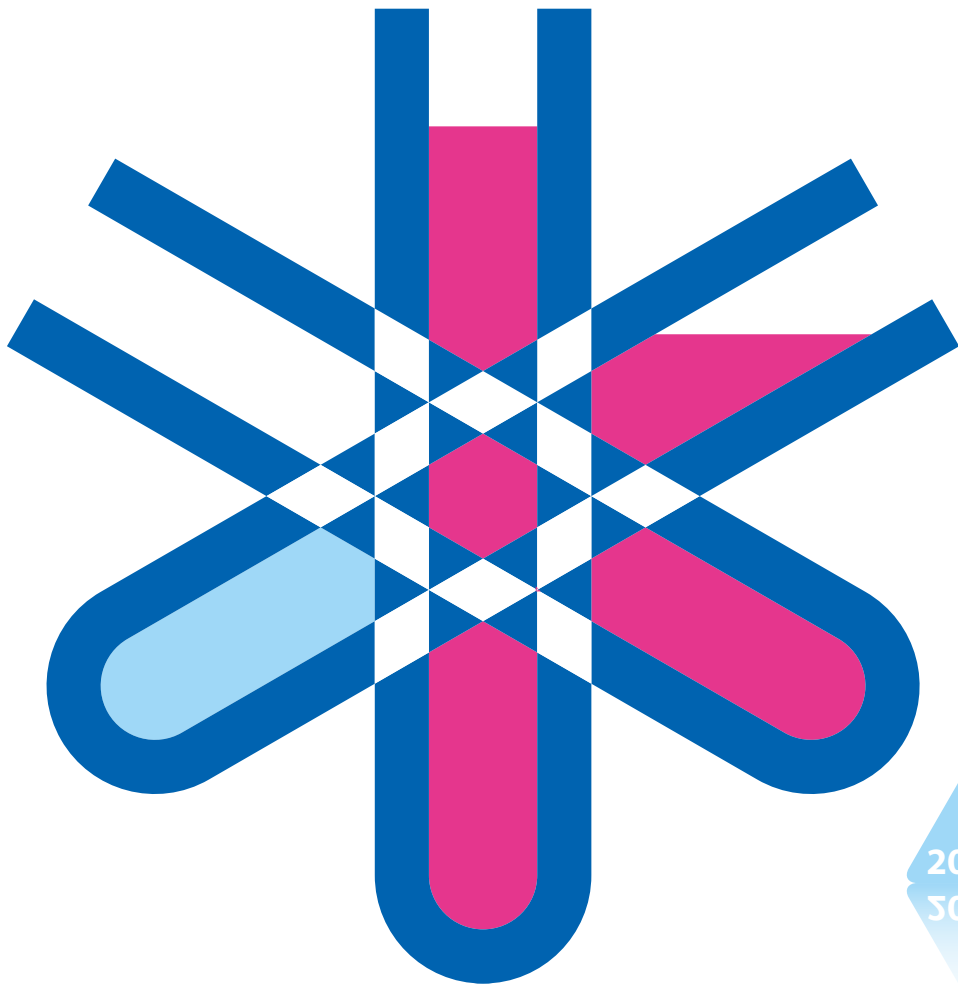


# 横查情報月報



横浜市衛生研究所

# 令和5年1月号 目次

## 【検査結果】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和4年5月～10月） .....	1
魚介類中のPCB検査結果（令和4年度） .....	4

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年12月） .....	5
------------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告*（令和4年12月） .....	7
--------------------------------	---

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和4年5月～10月）

当所では、横浜市蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります(表1)。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておく必要があります。

令和4年の蚊成虫捕獲調査は、市内の蚊種類相の把握を目的としたライトトラップ法と、ヤブカ属の捕獲を目的とした人<sup>ひと</sup>囀法による調査を行いました。ライトトラップ法は、ドライアイス<sup>ひとおとり</sup>を誘引剤として用いた電池式ライトトラップ(CDC型:写真1)をリスク地点5公園、モニタリング地点17公園の合計22公園に設置しました。また、捕虫網を用いた人囀法は、リスク地点の山下公園(3定点)で行いました(図1、表2)。調査は、各区福祉保健センター生活衛生課、(公社)神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。ここでは、これらの調査結果について報告します。

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の主な媒介蚊	主な感染環
デング熱		
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト



図1 蚊成虫捕獲調査地点

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点
鶴見	大黒中央公園(A) ●	南	蒔田の森公園(I) ●	青葉	桜台公園(Q) ●
神奈川	三ツ沢公園(B) ●	港南	久良岐公園(J) ●	都筑	都筑中央公園(R) ●
西	掃部山公園(C) ●	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園(K) ●	戸塚	舞岡公園(S) ●
	臨港パーク(D) ◆		旭	こども自然公園(L) ●	栄
中	山下公園(E) ◆*1	磯子	坪呑公園(M) ●	泉	泉中央公園(U) ●
	横浜公園(F) ◆	金沢	海の公園(N) ●	瀬谷	二ツ橋南公園(V) ●
	港の見える丘公園(G) ◆	港北	新横浜駅前公園(O) ◆		
	シンボルタワー(H) ●	緑	北八朔公園(P) ●		

●:モニタリング地点(全10回)  
◆:リスク地点(全12回)

\*1:ライトトラップ法と人囀法を実施

## 〈ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査をリスク地点5公園、モニタリング地点17公園の合計22公園で延べ230回行い、結果を表3に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、7属12種8,134個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ5,785個体(71.1%)でした。次いで、アカイエカ群が1,473個体(18.1%)、ヤマトヤブカが474個体(5.8%)、カラツイエカが150個体(1.8%)捕獲されました。

表3 ライトトラップ法による蚊の種類と総捕獲数(22公園:延べ230回\*2)

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群*3	1,450	23	1,473	(18.1)
	コガタアカイエカ	34	0	34	(0.4)
	カラツイエカ	149	1	150	(1.8)
	クシヒゲカ亜属	2	0	2	
カクイカ属	トラフカクイカ	1	1	2	
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	4,889	896	5,785	(71.1)
	ヤマトヤブカ	467	7	474	(5.8)
	ヤマダシマカ	1	0	1	
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	72	1	73	(0.9)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	75	11	86	(1.1)
ナガスネカ属	ハマドラナガスネカ	20	0	20	
チビカ属	フタクロホシチビカ	2	2	4	
破損(同定不能)		30	0	30	
合計		7,192	942	8,134	



写真1 CDC型ライトトラップ



ヒトスジシマカ 雌成虫

\*2:リスク地点(5公園)は全12回、モニタリング地点(17公園)は全10回調査を行った。

\*3:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネツタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、北八朔公園(緑区)の1,265個体で、次いで、臨港パーク(西区)が1,151個体、桜台公園(青葉区)が879個体でした。種類別にみると、ヒトスジシマカは、北八朔公園で1,153個体と最も多く捕獲され、次いで臨港パークが971個体でした。アカイエカ群は、シンボルタワー(中区)で268個体と最も多く捕獲され、次いで臨港パークが177個体でした。コガタアカイエカは、シンボルタワーで23個体と最も多く捕獲されました。

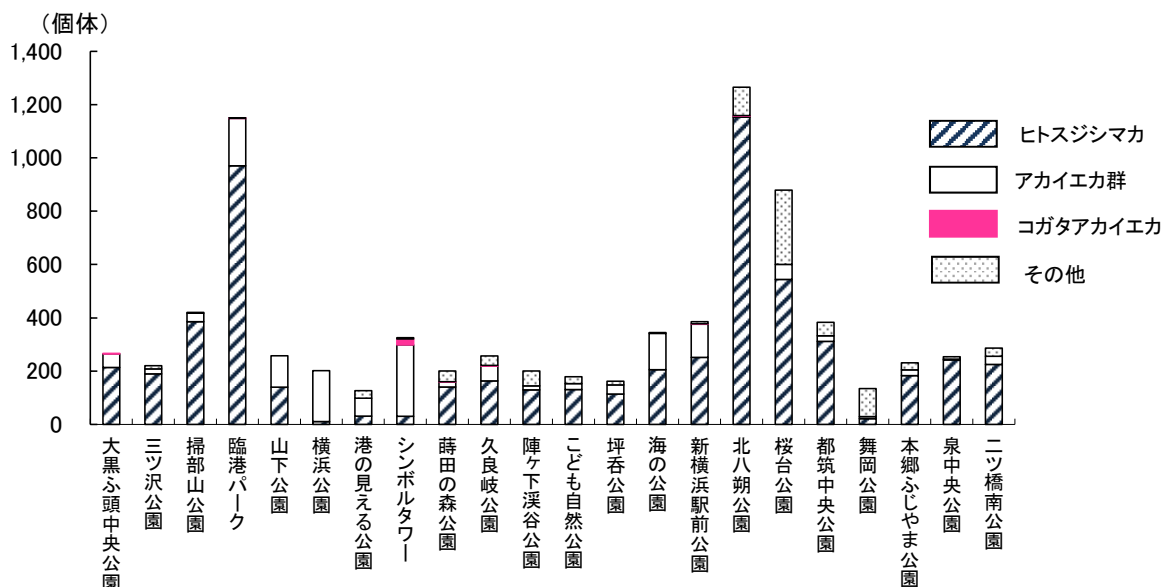
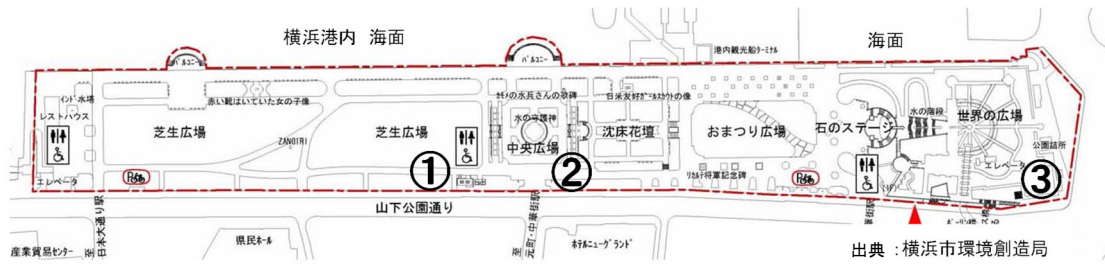


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひとおとり  
 〈人囮法によるヒトスジシマカ成虫捕獲調査:山下公園〉

山下公園、3定点において(図3)、人囮法(写真2)による蚊成虫捕獲調査を各12回(延べ36回)行いました。捕獲されたヒトスジシマカは、雌成虫が117個体、雄成虫が78個体、合計195個体でした。



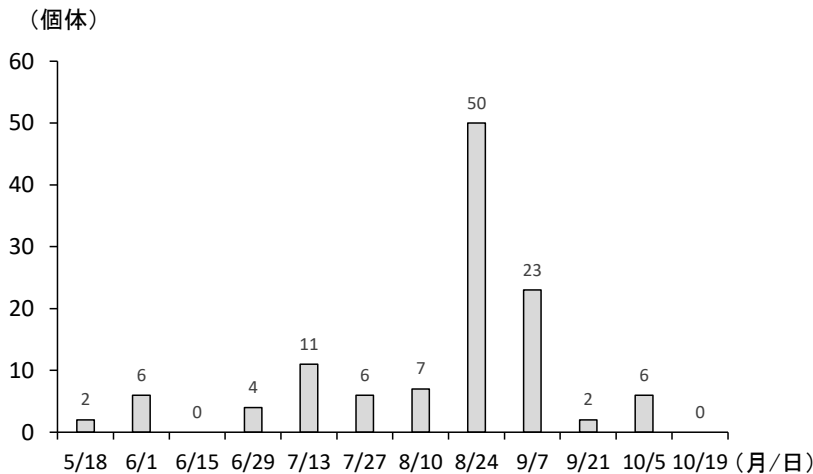
【山下公園】①発電設備横 ②中央広場付近の植え込み ③世界の広場端の緑地

ひとおとり  
 図3 人囮法の調査定点

ひとおとり  
 〈人囮法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長:山下公園〉

ひとおとり  
 人囮法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の消長(3定点の合計捕獲数)を図4に示しました。

ヒトスジシマカ雌成虫は、初回調査の5/18に2個体捕獲され、8/10までは11個体以下と少ない捕獲数でした。8/24には50個体と増加し、9/7も23個体とやや多く、その後は減少し、調査最終回の10/19は0個体でした。



ひとおとり  
 図4 人囮法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長(山下公園)



ひとおとり  
 写真2 人囮法

〈ウイルス検査〉

ひとおとり  
 ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫7,192個体、人囮法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫117個体について、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ウェブページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ウェブページ:感染症発生状況資料集>病原体情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

## 魚介類中のPCB検査結果（令和4年度）

令和4年5月及び10月に中央卸売市場本場で収去した市内に流通する魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表に示すとおりマサバ1検体からPCBを0.01ppm検出しました。検出された値は、暫定的規制値以下でした。

表 PCBの検査結果

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類	ババガレイ	1	0	不検出	0.5ppm
	マガレイ	1	0	不検出	
	マコガレイ	1	0	不検出	
	マサバ	2	1	不検出、0.01ppm	
内海内湾魚介類	シログチ	1	0	不検出	3ppm
	ブリ	1	0	不検出	
	マアジ	1	0	不検出	
	マダイ	1	0	不検出	
	ヤリイカ	1	0	不検出	
計	10	1			

(検出限界:0.01ppm)

### 《PCBについて》

PCBとは、ポリ塩化ビフェニル(Poly Chlorinated Biphenyl)の略称で、ポリ塩化ビフェニル化合物の総称です。理論的には209種類の異性体があり、ダイオキシン類に分類される異性体も含まれています。

PCBは化学的に安定で、不燃性、高絶縁性などの特徴を持つため、変圧器、コンデンサーなどの様々な用途に使用されてきましたが、カネミ油症事件による健康被害が社会問題になり、現在は製造・輸入ともに禁止されています。また、PCBは分解されにくく脂肪に溶けやすい性質があるため、環境中に放出されたものは食物連鎖の上位に位置する生物に蓄積され、魚介類、肉類、乳製品などに汚染が広がり問題となりました。

PCBは長期にわたりほとんど処理が行われていませんでしたが、平成13年6月22日に「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(PCB特措法)が公布され、現在では処理が進められています。東京事業エリア(埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県)においては、高濃度PCB含有の変圧器・コンデンサー等は令和4年3月31日をもって処分期間終了となりました。安定器及び汚染物等は令和5年3月31日まで、低濃度PCB廃棄物は令和9年3月31日までに処分が必要です。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報（令和4年12月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和4年12月のアクセス件数、アクセス順位、追加・更新記事について報告します。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

令和4年12月の総アクセス数は、239,947件でした。前月に比べ1.2%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*80.3%、保健情報9.3%、検査情報月報5.2%、薬事1.7%、食品衛生1.7%、生活環境衛生0.7%でした。

\* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

表1 令和4年12月 アクセス順位

順位	前月比	タイトル	件数
1	↑	トキソプラズマ症について	13,079
2	↓	EBウイルスと伝染性単核症について	10,372
3	↑	B群レンサ球菌 (GBS) 感染症について	8,134
4	↓	ぎょう虫 (蟯虫) 症について	7,320
5	↓	水痘 (水疱瘡)・帯状疱疹について	7,100
6	↓	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	6,332
7	↑↑	横浜市感染症情報センタートップページ	6,319
8	↓	サイトメガロウイルス感染症について	5,618
9	↑	淋菌感染症 (淋病) について	5,606
10	↓	粉ミルク (乳児用調整粉乳) を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？	4,516

(政策局広報課提供のデータを基に集計)

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「EBウイルスと伝染性単核症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/ebv1.html>

「B群レンサ球菌 (GBS) 感染症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/gbs1.html>

## 2 追加・更新記事

令和4年12月に追加・更新した主な記事は、5件でした(表2)。

表2 令和4年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 8日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載
12月14日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
12月20日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
12月28日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
	横浜市インフルエンザ流行情報1号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】



# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年12月）

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第41週以降増加に転じています。幅広い年齢層での感染がみられます。
- インフルエンザや感染性胃腸炎など増加の兆しがみられ、今後の動向に注意が必要です。
- 梅毒などの性感染症が高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

＜12月期に報告された全数把握疾患＞

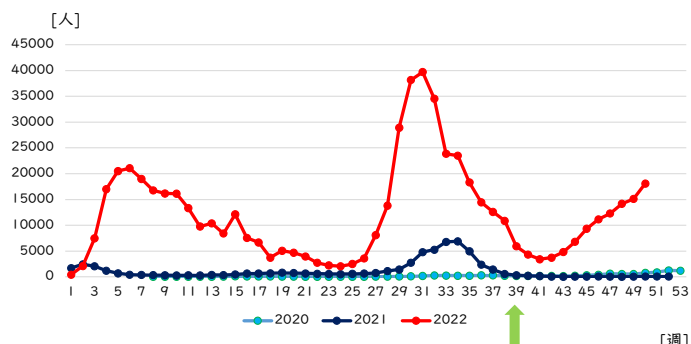
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
E型肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
A型肝炎	1件	梅毒	16件
レジオネラ症	4件	破傷風	1件
アメーバ赤痢	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	百日咳	2件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:10歳代～30歳代で、血清群O157が2件、O26が1件、Og146が1件、不明が2件で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 2 E型肝炎:30歳代で、経口感染と推定されています。
- 3 A型肝炎:80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 4 レジオネラ症:50歳代～90歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 5 アメーバ赤痢:70歳代で、性的接触(同性間)と推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:60歳代～80歳代で、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症:50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、3回1件、不明2件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 水痘(入院例に限る):80歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 梅毒:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間15件、詳細不明1件)ありました。
- 11 破傷風:70歳代(ワクチン接種歴不明)で、創傷感染と推定されています。
- 12 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:90歳代で、感染経路等不明です。
- 13 百日咳:10歳未満(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

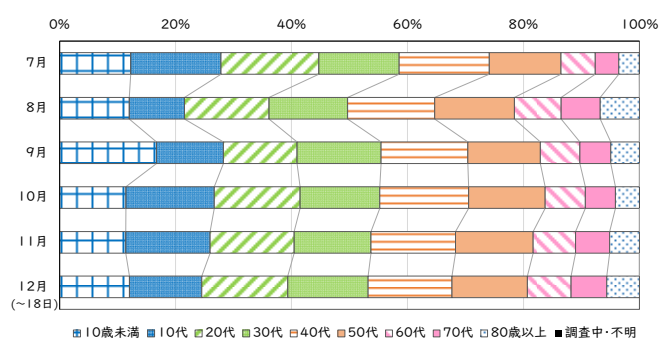
第47週～第50週に横浜市から報道発表がありました症例は59,652件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています。(緑矢印)



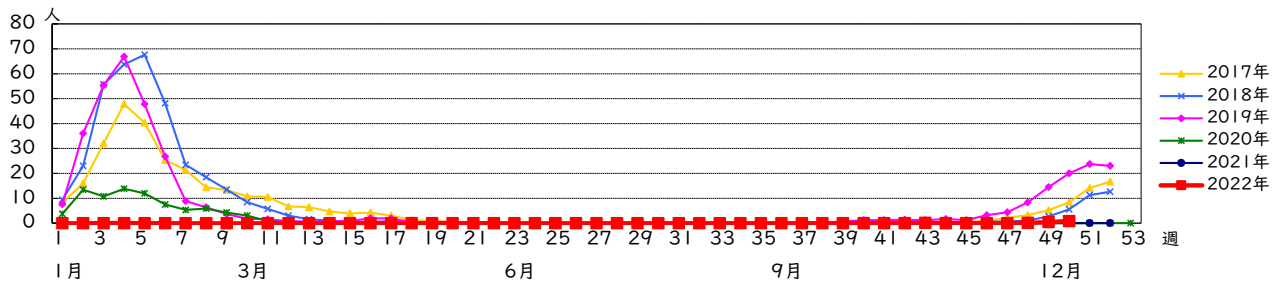
2 年齢層別患者割合

報告週対応表	
第47週	11月21日～11月27日
第48週	11月28日～12月 4日
第49週	12月 5日～12月11日
第50週	12月12日～12月18日

◇ 定点把握の対象

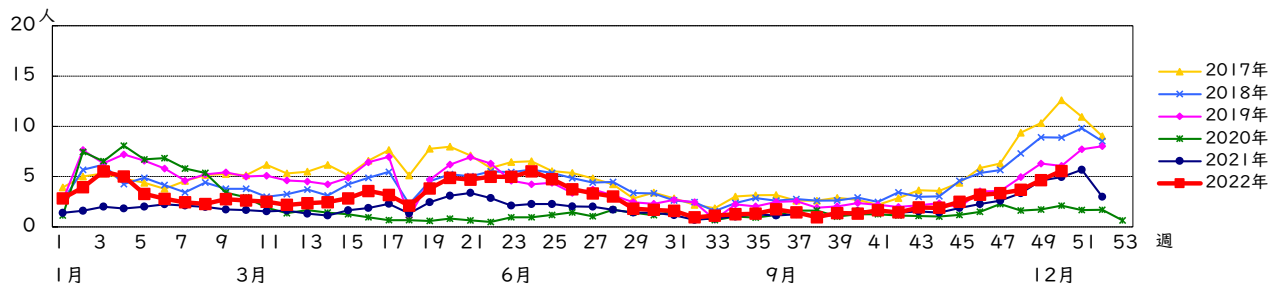
1 インフルエンザ:

第46週以降はわずかに増加しており、第47週0.04、第48週0.15、第49週0.42、第50週0.91です。



2 感染性胃腸炎:

第45週以降増加に転じ、第47週3.35、第48週3.69、第49週4.65、第50週5.55です。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性: 7件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第47週	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.33	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

## ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

## 〈ウイルス検査〉

12月期(2022年第47週～第50週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件、内科定点1件、基幹定点7件及び定点外医療機関4件でした。

アデノウイルス1型分離1株、アデノウイルス2型分離1株及びヒトパラインフルエンザウイルス3型分離1株並びに各種ウイルス遺伝子22件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第47週～第50週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	新 生 児 発 熱
アデノウイルス1型	1 —		
アデノウイルス2型	1 —		
エンテロウイルスD68型		— 1	
ヒトコロナウイルス*	— 1		
ヒトメタニューモウイルス		— 2	
ヒトパレコウイルス3型			— 1
ヒトパラインフルエンザウイルス1型	— 1		
ヒトパラインフルエンザウイルス3型	1 1	— 5	
ライノウイルス	— 5	— 4	
RSウイルス サブグループA		— 1	
合計	3 8	— 13	— 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

\* ヒトコロナウイルス:HCov OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

12月期(2022年第47週～第50週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、サルモネラ属菌1件、大腸菌1件でした。非定点からの検査は、非結核性抗酸菌(NTM)2件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌5件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性肺炎球菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、レジオネラ属菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、非定点からライム病(ボレリア)3件、保健所からレジオネラ属菌2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎1件、胃腸炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2022年第47週～第50週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Blockley (1)	
		大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O157 : H40 (1)	
	非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (2)	
保健所		腸管出血性大腸菌	5	O157 : H7 VT1 VT2 (1)、O157 : H7 VT2 (1)、O157 : H- VT1 VT2 (1)、O26 : H11 VT1 (1)、Og146 : Hg10 VT1 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22型 (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 33型 (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	F群溶血性レンサ球菌 (1)	
		レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG9 (1)	
		バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium</i> <i>vanA</i> (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	非定点		血清	1	抗ボレリア抗体 IgG : ボーダーライン、IgM : ボーダーライン (1)
			全血	1	RealtimePCR ライム病ボレリア、回帰熱群ボレリア 陰性 (1)
			痂皮	1	RealtimePCR ライム病ボレリア、回帰熱群ボレリア 陰性 (1)
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	培養陰性 (2)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点		咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)
		直腸ぬぐい	胃腸炎	1	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシンC (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】